

# 児童指導員 専門性チェックリスト

## 【評価の目安】

- ・ チェックが15個以上：専門的支援の担い手として、質の高い支援を提供できています。さらなる高度な研修や、チームリーダーとしての活躍が期待されます。
- ・ チェックが10～14個：経験が実力に結びついています。不足している項目（特に理論の裏付けなど）に焦点を当てて学ぶことで、より盤石な専門性が身につきます。
- ・ チェックが9個以下：「経験年数」に知識が追いついていない可能性があります。まずは療育理論の基礎（ABAなど）を学び直し、自身の支援を言語化するトレーニングが必要です。

## アセスメント・分析スキル

1

- ABC分析（先行事象・行動・結果）の視点で、子どもの行動の背景（機能）を推測し、言語化できる。
- 「わがまま」「やる気がない」といった主観的な言葉を避け、「具体的な行動」として客観的に記録できる。
- 子どもの「できないこと」だけでなく、「強み（ストレングス）」や「興味関心」を評価し、支援に組み込める。
- 感覚過敏や鈍麻など、感覚特性の視点から環境調整の必要性を判断できる。

## 個別支援計画と目標設定

2

- 立てた目標が「いつ、どこで、誰が、何を、どうするか」まで具体的に設定されている。
- 目標が「計測可能」（例：〇回中〇回できた、〇分間持続した）な数値で設定されている。
- 目標達成のためのステップを細分化する「タスク分析」を行い、スマールステップを提示できる。
- 半年後のモニタリング時に、達成・未達成の理由を客観的根拠（データ）に基づいて説明できる。

3

## 支援技術の理論と実践

- ABA（応用行動分析）やTEACCHなどの療育理論の基本概念を理解し、支援の現場で応用している。
- 子どもの混乱を防ぐための「視覚的な構造化」（タイマー、スケジュール、絵カード等）を適切に作成・活用できる。
- 適切なタイミングで補助（プロンプト）を出し、成功体験を積ませるとともに、プロンプト・フェイディング（補助の除去）を計画的に行える。
- 望ましくない行動に対し、単に叱るのではなく、代替行動（代わりとなる適切な行動）を教えるアプローチができる。

4

## コミュニケーションと説明責任（言語化）

- 保護者に対し、その日の支援の意図を「〇〇という理論（根拠）に基づいて行いました」と専門用語を噛み碎いて説明できる。
- PT・OTなどの専門職や医師、教育機関等の関係機関と連携し、より広い視野で支援ができるよう情報交換ができる。
- 自身の支援がうまくいかなかった際、それを隠さず「支援方法のミス」として冷静に分析し、チームに共有できる。

5

## 自己研鑽とチームへの貢献

- 年間に4回以上、外部研修や学会、勉強会に自発的に参加し、最新の知見をアップデートし続けている。
- 自身の持つ専門的な知識や経験を、チーム内のスタッフに対して言語化して指導（OJT）できている。
- ヒヤリハット事例などから、「個人の責任」ではなく「組織の環境」の問題として改善策を提案できる。